親字	音訓	甲骨文・金文・古文（殷・西周・春秋・戦国）			説文解字 秦篆	隷書（秦・前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
姉 教2常①	シ あね		金文		大徐・女部	居延漢簡	馬姜墓誌	淳化閣帖		高貞碑		五経・女部	瑚玉集
姉			金文			武威漢簡							
妾 ①	ショウ めかけ	甲骨	金文	睡虎地秦簡	大徐・辛部	武威漢簡	西狭頌			敬史君碑	契苾明碑		東大寺献物帳
		大克鼎	子弾庫楚帛	包山楚簡	段注・辛部								聾瞽指歸
姓 常①	セイ ショウ かばね		金文	睡虎地秦簡	大徐・女部	居延漢簡	西狭頌				化度寺碑		王勃詩序
				睡虎地秦簡		武威漢簡	禮器碑				道因法師碑		聾瞽指歸
妬 新①	ト ねたむ そねむ やく			睡虎地秦簡	大徐・女部	馬王堆1				馮迎男墓誌		干禄字書	聾瞽指歸
妒					段注・女部	馬王堆2						五経・女部	空海・金剛般若經開題
妹 教2常①	マイ メ いもうと	甲骨	甲骨	大盂鼎	大徐・女部	武威漢簡		十七帖		高貞碑	春秋左伝昭公		
		甲骨	金文										
娃 人①	ア アイ エ うつくしい				大徐・女部								
姶 ①	アイ あい みめよい				大徐・女部								

【姉】説文の字体に従えば「姉」でよいとおもうのだが、なぜ五経文字では「姊」なのだろう。
【姓】甲骨に同じ字体のものがあるが、現在の「姓」とは別字体とおもわれるので掲載しなかった。
【妬】大徐本のみ「女＋戸」で、段注本や睡虎地秦簡や馬王堆は「女＋石」。干禄字書では「妬」が正字体で「妒」が通字体。五経文字も「妬」をとり「妒者非」としている。康熙字典には「妬」と「妒」の両方があり同字。陸軍幼年学校用字便覧も「妬」と「妒」を同字としている。馬王堆1は「石」と「女」が上下の位置関係になった移構の文字。

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
姉 元暦萬葉②	姉 消息往来	姉 女5	姉		姉 明治の漢字(許容)		姉	姉	姉	姉 ○	姉		姉 現代中国
	姉 節用	姉 女5			姉 明治の漢字(許容)								
					姉 明治の漢字(標準)								
妾 粘葉本朗詠	妾 家道訓	妾 女5	妾				妾						
妾 元暦萬葉③	妾 節用												
姓 元暦萬葉①	姓 後家続消息往来	姓 女5	姓	姓			姓	姓	姓	姓		曹全碑	姓 現代中国
妬 藤原行成	妬 女大学	妬 女5			妒 陸軍		妬					妒 干禄〈通〉	妒 現代中国
妬 近衛本朗詠	妬 節用	妬 女4			妬 陸軍								
妹 元暦萬葉②	妹 節用	妹 女5	妹				妹	妹	妹	妹 ○	妹	妹 元暦萬葉②	妹 現代中国
妹 白氏詩巻													
娃 粘葉本朗詠		娃 女6	娃										娃 現代中国
姶 墨流本朗詠													
		姶 女6	姶										姶 現代中国

※当用漢字字体表の下の○ × は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文（殷・西周・春秋・戦国）			説文解字 秦篆	隷書（秦・前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
威 常①	イ おどす たけし	金文	金文	睡虎地秦簡	大徐・女部	馬王堆	西狭頌	智永千字文	集字聖教序	元楨墓誌	皇甫誕碑		王勃詩序
		金文	金文	上海楚竹書		馬王堆	曹全碑	智永千字文					杜家立成
姻 常①	イン とつぐ				大徐・女部					饗龍顔碑	龍玉墓誌		王勃詩序
					大徐籀文					崔敬邕墓誌	永泰公主墓誌		
姥 人①	ボ うば												
姦 ①	カン かしましい	殷・金文	金文	包山楚簡	大徐・女部	馬王堆	敦煌漢簡				古文尚書⑤	五経・女部	瑚玉集
奸 ④	カン				大徐古文	馬王堆	敦煌漢簡			敬史君碑			聾聾指歸
奸 ②	カン よこしま おかす	殷・金文		睡虎地秦簡	大徐・女部	馬王堆	衡方碑					五経・女部	
						銀雀山竹簡	嘉平石経						
姿 教6常①	シ すがた				大徐・女部		西狭頌	智永千字文	興福寺断碑	高貞碑	泉男生墓誌		聖武天皇雑集
姫 常①	キ シン ひめ	甲骨	金文		大徐・女部		嘉平石経			元諺妻馬氏墓誌	孔子廟堂碑	五経・女部	瑚玉集
姫		甲骨	金文				魏・正始石経			張猛龍碑	温彦博碑		聾聾指歸
姫										龍碑造像記			

【姻】文部省活字では旁の「因」の中の「大」の右払いを払っているが、四角で囲まれた空間の中では止めるべきだとおもう。康熙字典に倣ったのだろうか。当用漢字表や当用漢字字体表は止めている。「因」の中の「大」は開脚して「土」になり頭をすくめて「工」になり右側が省略されて「コ」になる。

【姦】大徐には「姦」と「奸」が別に掲載されていて「奸」は見えない。「奸」が出現するのは南北朝期のようだが、二玄社『新書源』では敬史君碑の「奸」は「妊」の異体字として掲載されている。五経文字には「姦」の〈訛〉つまり俗字として「奸」が載っており、「妊」は別に載っている。平安から江戸時代には「姦」の意味で「奸」を使っている。康熙字典には「姦」「奸」「妊」が別々に載っている。現代中国では「妊」を使う。

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
威 粘葉本朗詠	節用	威 女6					威	威				周・金文	威 現代中国
威 粘葉本朗詠												漢・居延漢簡	
	姻 統鳴翁道話	姻 女6	姻				姻	姻		因			姻 現代中国
	姥 節用	姥 女6	姥										姥 現代中国
姦 元暦萬葉②	姦 家道訓	姦 女6	姦				姦					江戸五経(訛)	奸 現代中国
姦 東寺・三宝絵詞	奸 節用	姦 古文											
	奸 庭訓往来	奸 女6	奸				奸						
		奸 女3											
姿 元暦萬葉②	姿 岩木絵尽	姿 女6	姿	姿			姿	姿	姿	姿 ○	姿	漱石	姿 現代中国
	姿 節用			姿									
姫 元暦萬葉①	姫 節用	姫 女6	姫		姫 陸軍〈正〉		姫	姫		姫 ×			姫 現代中国
姫 元暦萬葉②	姫 消息案文	姫 女6			姫 陸軍〈別1〉								
姫 粘葉本朗詠					姫 陸軍〈別2〉								

※当用漢字字体表の下の○ × は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文（殷・西周・春秋・戦国）			説文解字 秦篆	隷書（秦・前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
姪 人①	テツ めい おい		金文	金文	大徐・女部	武威漢簡				高慶碑	叔氏墓誌	干禄・序	聾瞽指歸
			金文	金文									
娛 常①	ゴ たのしむ				大徐・女部		呂峻碑		蘭亭序		霍漢墓誌		聖武天皇雑集
娛													聾瞽指歸
娠 常①	シン はらむ				大徐・女部		武梁祠画像						
娘 常①	ジョウ むすめ	甲骨											
孃 常①	ジョウ はは むすめ				大徐・女部	段注・女部							聾瞽指歸
娩 人①	ベン	甲骨	甲骨	郭店楚簡	大徐・子部					司馬顯姿墓誌		五経・女部	
娩		甲骨	殷晚期・金文	包山楚簡									
		甲骨		望山楚簡									
婚 常①	コン		毛公鼎	侯馬盟書	大徐・女部	段注・女部		十七帖		鄭義下碑	李迪墓誌	五経・女部	瑚玉集
					大徐籀文	段注籀文							
娼 ①	ショウ												

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
姪 桂宮本万葉	姪 節用	姪 女6	姪				姪						侄 現代中国
姪 元暦萬葉④	姪 節用												
娛 藤原行成	娛 節用	娛 女7	娛	吳			娛	娛		娛 ×			娛 現代中国
娛 藤原行成				誤									
	娠 年始状	娠 女7	娠				娠	娠		娠			娠 現代中国
		娘 女7	娘		娘 明治の漢字		娘	娘	娘	娘 ○			娘 現代中国
孃 元暦萬葉④		孃 女17	孃	孃	孃 明治の漢字		孃	孃	孃	孃 ×		孃 人②	娘 現代中国
		娩 女7	娩				娩						娩 現代中国
		娩 子7											
婚 玉泉帖	婚 節用	婚 女8	婚	婚			婚	婚	婚	婚			婚 現代中国
婚 元暦萬葉②				婚									
婚 尼崎萬葉⑯													
	娼 山東滑稽文選	娼 女8	娼				娼						娼 現代中国

【姪】甲骨には人名としての用例しかなく、亡失字であり、現在の「姪」とは別字種らしい。
【娛】漱石が不思議な字体を書いている。偏は何を書いているのだろう。行人偏か言偏か。
【娠】甲骨に同じ字体があるが、女性の名としてしか使用されていないらしく、現在の字とは別字種だとおもわれるので掲載しなかった。
【娘】「娘」は「孃」の略字だとおもわれる。『教育上より見たる明治の漢字』に「孃」の許用字として「娘」が載っている。現代中国では「娘」と「孃」が「娘」に統合されている。

甲骨の「娘」は人名としての用例しかないらしく、別字種だとおもわれる。「孃」は大徐にあるが古代の字に見えない。漱石は略しすぎ。太宰の「孃」は「口」が二つ繋がっている。
【娩】元々は「子」に従う字だったらしい。説文では「子部」にある。JIS2004で字体が変更された。現在は康熙字典と同じ「娩」で女の7画だが、変更前は「娩」で女の8画。人名用漢字はもともと7画の「娩」であって8画の「娩」ではない。

※当用漢字字体表の下の○ × は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文（殷・西周・春秋・戦国）			説文解字 秦篆	隷書（秦・前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
婆 常①	バ ばば								集字聖教序	敬史君碑	圭峰禪師碑		聖武天皇雑集
婦 教5 常①	フ おんな よめ	甲骨	殷・金文	金文	大徐・女部	馬王堆	熹平石経	十七帖	王羲之・地黄湯帖	顔謙婦劉氏墓塼	薄夫人墓誌		杜家立成
		甲骨	金文	金文	段注・女部	武威漢簡	曹全碑			孟敬訓墓誌			
		甲骨	金文	郭店楚簡		武威漢簡	西晋・荀岳墓誌						
		殷・金文	金文	包山楚簡									
婁 ①	ロウ	金文	郭店楚簡	睡虎地秦簡	大徐・女部		史晨前碑				泉男生墓誌	江戸五経・女部（大徐）	聯玉集
娄		金文	郭店楚簡	包山楚簡	大徐古文		熹平石経					五経・女部（石経）	最澄・空海請来目録
		包山楚簡	郭店楚簡	包山楚簡	段注籀文								
媒 常①	バイ なかだち なこうど				大徐・女部	馬王堆						五経・女部	
媛 新①	エン ひめ				大徐・女部	馬姜墓誌	西晋・郭槐墓銘	書譜		元顔平妻王氏墓誌	薄夫人墓誌		聾瞽指歸
婿 常①	セイ むこ			睡虎地秦簡	大徐・士部	武威漢簡	晋・管洛墓碑					干禄字書	大聖武
壻 ②					大徐或体							五経・士部	
聟 ②													

【婦】旁の上部の「ヨ」の真ん中の横線は古代は右に出ない。
【婁】大徐本には篆文と古文しかないが、段注本には籀文が追加されている。ほとんどの漢字は手書きでは伸ばす線は1字に1箇所に整理されるが、この字はまだ決まっていないらしい。私見では「女」の横線だけを伸ばすのがよいと思う。

【媛】2020年度から教育漢字になる。
【婿】「婿」「壻」「聟」は異体字。説文には「士部」に「壻」が載っており、その或体として「婿」が載っている。

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
元暦萬葉②	節用	女 8										漱石	現代中国
元暦萬葉②	節用	女 8			教科書					×			現代中国
粘葉本朗詠	家道訓	古文											
		女 8											現代中国
		古文											
元暦萬葉②	節用	女 9											現代中国
粘葉本朗詠	貴家調宝記嗣篇												
元暦萬葉⑥		女 9										媛	現代中国
粘葉本朗詠	礼容筆粋	女 9			陸軍・正体					×			現代中国
	宝抓取	士 9											
		耳 8											

※当用漢字字体表の下の○ × は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文（殷・西周・春秋・戦国）			説文解字 秦篆	隷書（秦・前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
嫁 常①	カ とつぐ よめ			睡虎地秦簡	大徐・女部	馬王堆					春秋穀梁伝集解		大聖武
						武威漢簡							伝空海急就章
嫌 常①	ケン ゲン いや きらう うたがう			包山楚簡	大徐・女部					穆玉容墓誌	信行禅師碑		杜家立成
嫌											春秋穀梁伝集解		
嫉 新①	シツ にくむ ねたむ そねむ				大徐・人部						薄美人墓誌		聾瞽指歸
					大徐或体						房山雲居寺石経		
嫡 常①	チャク よつぎ				大徐・女部			智永千字文	智永千字文	元熙墓誌		干禄字書	
								孫過庭				江戸五経	
嬉 人①	キ うれしい たのしむ	甲骨							王献之		信行禅師碑		
孃 常①	ジョウ はは むすめ				大徐・女部	段注・女部							聾瞽指歸
娘 常①	ジョウ むすめ	甲骨											
嬰 ①	エイ みどりご		金文	睡虎地秦簡	大徐・女部	馬王堆	熹平石経			崔敬邕墓誌	等慈寺碑		聖武天皇雑集
				包山楚簡		銀雀山竹簡							
孺 ①	ジュ つま				大徐・女部								

【嫉】説文に人偏の異体字がある。
【嫡】五経文字は干禄字書の旁の点の角度を説文篆文に倣って修正している。康熙字典も同様。
【嬉】説文にないので、篆書では「娭」を書く。甲骨にある字は現在の字と同源かどうか疑わしい。
【孃】異体字の「孃」は人名用漢字でJIS第二水準にある。『教育上より見たる明治の漢字』に「孃」の許用字として「娘」が載っている。現代中国では「娘」と「孃」が「娘」に統合されている。「娘」は甲骨にあるが人名として使われているにすぎず亡失したとおもわれる。「孃」は説文にあるが古代の字に見えない。漱石は略しすぎ。太宰の「孃」は「口」が二つ繋がっている。

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
元暦萬葉④	節用	女 10											嫁 現代中国
玉泉帖	消息往来												
粘葉本朗詠	顧韙雙絡疆	女 10											嫌 現代中国
粘葉本朗詠	節用												
藤原俊成	女大学	女 10											嫉 現代中国
後花園天皇	節用	女 11								○			嫡 現代中国
尊円親王													
伝嵯峨天皇	節用	女 12										臘宮高	嬉 現代中国
元暦萬葉④		女 17			明治の漢字					×		人②	孃 娘 現代中国
		女 7			明治の漢字					○			娘 現代中国
粘葉本朗詠	節用	女 14											嬰 現代中国
元暦萬葉①		女 14											孺 現代中国

※当用漢字字体表の下の○ × は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。